

よりよい社会づくりのため、さまざまな社会貢献活動に取り組んでおります。

公共性の高い生命保険事業を営む当社では、事業の健全な運営こそが「企業の社会的責任（CSR）」を果たしていく上で最も大切なことと考えております。その上で、よりよい社会づくりのためにさまざまな社会貢献活動にも積極的に取り組んでおります。

● 芸術文化（アート）をとおして、つながっていくさまざまな活動

芸術文化（アート）には、「さまざまな人々をつなげていく力」があります。当社はこれまでクラシック音楽のコンサート活動を通じ、多くのお客さまや地域の方々、また障がいのある子どもたちと音楽を通してつながってまいりました。そして、こうした芸術文化（アート）による活動は、コンサートだけにとどまらず、さまざまな活動へと発展・成長し続けております。

「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」

この活動は、1989年度に始まった内幸町本社ビルでのロビーコンサート「フコク・サロンコンサート」から発展してきました。

「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」とは、プロの音楽家による本物のクラシック音楽を、特別支援学校や障がい者施設の方々へお届けする「訪問コンサート」と、ご来場の皆さまに地域の福祉にお役立ていただく募金へのご協力をお願いする「チャリティコンサート」を、同じ地域であわせて開催する活動です。

● 訪問コンサート

2003年度より、「チャリティコンサート」を開催した地域の特別支援学校や障がい者施設などを訪問し、「チャリティコンサート」の出演者による「訪問コンサート」を行っております。

「訪問コンサート」では、単に音楽家の演奏会をお届けするだけでなく、訪問先のリクエスト曲を当日演奏し、音楽家と一緒に当社職員も参加するプログラムも行っております。

「訪問コンサート」は、2019年度末までに通算251カ所で実施しました。



● チャリティコンサート

1993年度から開始した入場無料の「チャリティコンサート」では、会場でお客さまにチャリティ募金のご協力をお願いしております。ご協力いただいた募金は、コンサート開催地の社会福祉協議会などへお届けし、地域の社会福祉にお役立ていただいております。

また、コンサートのご案内や当日の受付などの運営は、開催地の支社スタッフ・お客さまアドバイザーが行い、舞台上で音楽家とコラボレーションするプログラムも行っております。

なお、「チャリティコンサート」の会場ロビーでは、障がい者施設などからのご要望にお応えし、施設で作られた製品の販売会を行っております。

「チャリティコンサート」は、2019年度末までに通算299回開催し、寄付総額は約6,440万円となりました。



2019年度「訪問&チャリティコンサート」開催支社（9カ所）

奈良・札幌・盛岡・大津・鳥取・千葉ニュータウン本社・東京^{*}・北九州・岐阜（開催順）

^{*}東京支社・訪問コンサートは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止。

●「フコク生命パートナー・アーティスト」とともに

コンサートに出演するのは、当社の活動趣旨に賛同し、相互理解を深めた「フコク生命パートナー・アーティスト」です。単なる出演者ではなく、ともにさまざまなプログラム創りなども行い活動を進めていく重要なパートナーです。「フコク生命パートナー・アーティスト」は、日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーや国内外で活躍するトップレベルの音楽家で構成されています。

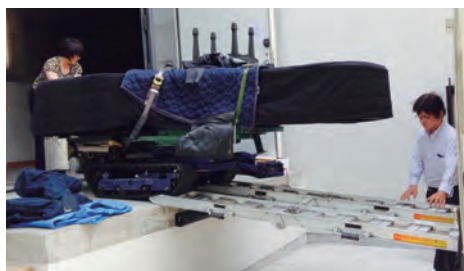
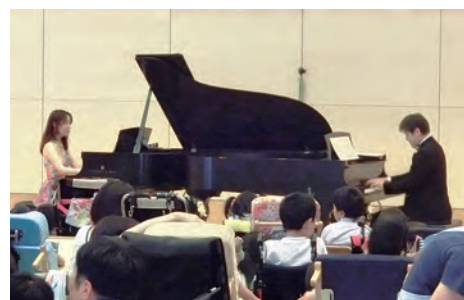
● 来場者へは最高の音楽を、演奏者には最高のステージを届けるために

通常のコンサートではホールが所有するピアノを使用して演奏していますが、当社の「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」の趣旨に賛同していただいているタカギクラヴィア株式会社は、「フコク生命パートナー・コンサート・チューナー」として世界三大名器のひとつである「スタインウェイ」社製のピアノを、全国各地のコンサート会場まで、自社で運搬、搬入し、それぞれのピアニストの個性に合わせた調律をしていただくなど、当社のコンサートをサポートいただいています。

● 楽器にさわって、身体で音楽を感じる～タッチ・ザ・ミュージック!～

特別支援学校などで開催する「訪問コンサート」では、生徒たちに演奏中のピアノにさわってもらったり、ピアノの下に入るなどして、ピアノの振動を直接感じてもらう機会を提供しています。生徒たちがさわるピアノは、プロの演奏家のコンサートで使用される「スタインウェイ」社製のピアノです。

また、生徒たちにヴァイオリンやハンドベルにさわってもらい、楽器を実際に演奏してもらう機会も提供しています。



ピアノ搬入の様子。協力：タカギクラヴィア株式会社
(フコク生命パートナー・コンサート・チューナー)



被災地への復興応援活動

●被災地訪問&応援コンサート・被災地訪問コンサート

東日本大震災からの復興にはまだ時間が必要です。当社では福島県・宮城県・岩手県の被災地3県への復興応援活動として「被災地訪問&応援コンサート」・「被災地訪問コンサート」を継続して開催しております。

また、チャリティコンサートの募金の一部を東日本大震災で被災された方々に寄付しています。

2019年度は被災地訪問コンサートを8校で開催し、応援コンサートを仙台・福島の2支社で開催しました。

●被災地特産品販売会

東日本大震災で被災した福島県・宮城県・岩手県の「被災地特産品販売会」を、内幸町本社地下1階のオープンスペースと千葉ニュータウン本社1階エントランスロビーで継続して開催しております。

「被災地特産品販売会」は社内だけでなく、社外の方などにも多くのご協力をいただいております。



「ハローキティ」の病院訪問活動

当社イメージキャラクターである「ハローキティ」が、子ども病院・小児科病棟などを訪問し、入院中のお子さまやそのご家族を応援する活動です。ハローキティとの記念写真を撮影し、当社有志が手作りした写真立てに入れてプレゼントしております。

■2019年度「『ハローキティ』の病院訪問活動」活動実績

(訪問時期順・敬称略)

訪問先	
2019年 5月22日	国立病院機構 下志津病院
2019年 6月28日	国立病院機構 渋川医療センター
2019年 8月 7日	東京都立北療育医療センター
2019年 9月19日	神奈川県立こども医療センター
2019年11月22日	東京都立小児総合医療センター

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、3月開催分については中止



当社有志が手作りした写真立て

すまいる・ぎやらりー～特別支援学校生徒作品展～

2012年度より、障がいのある子どもたちのアート制作を応援する活動として、内幸町本社ビル地下2階の商店街壁面を利用して、全国の特別支援学校生徒の美術作品を展示する企画「すまいる・ぎやらりー」を開催しております。この活動は、当社が2003年度から行ってきた特別支援学校へお伺いして開催する「訪問コンサート」を通じた交流の中から生まれました。

また、出展作品を使用したカレンダーの作成を行い、当社職員がお客さまへお配りしております。



当社内幸町本社地下2階の商店街壁面に作品を展示。

■2019年度「すまいる・ぎやらりー」出展校

(開催時期順・敬称略)

福島県立石川支援学校	宮城県立石巻支援学校
千葉県立特別支援学校流山高等学園	福島県立会津支援学校本校・竹田校
福島県立郡山支援学校	岩手県立気仙光陵支援学校
福島県立西郷支援学校	福島県立聴覚支援学校 本校・会津校・平校・福島校
岩手県立釜石祥雲支援学校	筑波大学附属聴覚特別支援学校



当社作成のカレンダー

障がい者施設運営のベーカリーショップの出張販売会

内幸町本社や千葉ニュータウン本社主催の「訪問&チャリティコンサート」でのロビー販売会をきっかけに、定期的に両本社内において障がい者施設運営によるベーカリーショップの出張販売会を行っております。当社職員も販売会のスタッフとして参加するなど、販売場所をご提供するだけでなく施設との協働運営を行っており、社内における障がいのある方への理解促進の一助と社会参加を支援しております。



販売団体

内幸町本社：社会福祉法人「緑の風」運営「さくらベーカリー」
千葉ニュータウン本社：社会福祉法人印旛福祉会「いんば学舎・オソロク倶楽部」

METライブビューイングへの協賛

ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場 (MET) で上演されたオペラ公演をハイビジョン映像で映画化し、上映する「METライブビューイング (松竹株式会社配給)」に協賛しております。最上級のオペラ芸術に接する機会をご提供する活動に協賛することで、芸術文化振興に貢献しております。



METライブビューイング2019-20
《トゥーランドット》
©Marty Sohl / Metropolitan Opera

ピンクリボン運動、Hellosmile (ハロースマイル) への協力

当社では、2008年度より乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボンフェスティバル（日本対がん協会など主催）」への協賛などを通じ、ピンクリボン運動を支援しております。

さらに2011年度には子宮頸がんの予防啓発を推進するプロジェクト「Hellosmile (ハロースマイル)」へ参画し、同プロジェクトの支援も行ってまいります。

具体的な取組みとして、当社職員がピンクリボンバッジやHellosmile バッジをつけ「啓発パンフレット」などをお客さまに配布して、検診の大切さを伝えるなどの活動を行っております。



認知症サポーター認定取得の推進

2018年10月より認知症の方へ適切な対応ができるよう認知症サポーター認定の推進を開始しました。2020年5月1日時点で9,242名が認知症サポーター認定を取得し、認知症症状のある方やそのご家族に接する機会があった際、適切な手助けを行っております。

また2019年度から全国の支社・本社に自前で認知症サポーター養成講座を実施する「認知症キャラバン・メイト」を配置しました。



「特殊詐欺」被害防止に向けた啓発活動への協力

社会問題となっている「特殊詐欺」の被害防止に協力するため、お客さまアドバイザーと各都道府県警察が共同で使用可能な特殊詐欺被害防止啓発用のチラシ・ティッシュを作成しました。2019年度は14都府県の警察にご協力いただき、警察署にチラシ・ティッシュを配備していただく、駅前などでお客さまアドバイザーと共同で配布するなどしてご活用いただいています。

また、2019年度は滋賀県警察本部、奈良県警察本部、和歌山県警察本部、兵庫県警察本部等と現地支社の間で特殊詐欺被害防止に向けた協定を結んでいます。



各都道府県警と共同で作成しているティッシュ (画像は警視庁版)

各都道府県警と共同で作成しているチラシ (画像は警視庁版)

大阪富国生命ビルの社会貢献活動

2010年に竣工の大阪富国生命ビルは、瓜生山学園京都芸術大学「大阪サテライトキャンパス」、立命館大学「大阪梅田キャンパス」などの大学関係施設や、大阪大学との産学連携活動の支援施設などを誘致し、芸術文化、健康などに関する情報を地域社会に発信しております。

また、大阪大学の先生方が中心となり設立された植物研究を通じた緑豊かな生活環境の構築を目指す「智の木協会」へも参画しております。



社有不動産活用による社会貢献

待機児童問題などの社会的な課題解決へ貢献するため社有不動産に保育所等を積極的に誘致しており、現在では、東京都に3カ所、埼玉県、大阪府、和歌山県に各1カ所ずつ開設され、地域の皆さまにご利用いただいています。



環境へ配慮した活動を推進しております。

温暖化対策をはじめとする環境保護への取組みは、わたしたちが健康で豊かな生活を営む上で重要なものとなっております。当社では、職員一人ひとりがしっかりと環境への意識を持ち、行動していくことが大切であると考えております。また、オフィスビルなどで省エネルギーへの取組みも行ってまいります。

「フコク生命(いのち)の森」プロジェクト ～「宇佐美倶楽部」の活動～

2006年度より、環境保護活動に参加・体験することのできる場として、「竹害対策」を主とした「フコク生命(いのち)の森」プロジェクトを行っております。

現在、後継者不足などで、人の手が入らなくなった放置林が増えています。中でも繁殖力の強い孟宗竹(もうそうちく)の放置林は、温室効果ガスの一つであるCO₂の吸着に必要な森林を侵食してだけでなく農耕地への侵入などの悪影響を引き起こしています。また、根の浅い竹林は、地すべりや表土の流失の原因ともなり、山林の荒廃や土砂崩れなどの災害の原因ともなります。これを「竹害」と言い、自然環境の保全や災害対策が必要となってきています。

「フコク生命(いのち)の森」プロジェクトは、当社が静岡県伊東市宇佐美に保有する山林を保全するため、竹林伐採を当社役職員の手によって行う活動です。森の再生だけでなく、間伐により竹林自体も健全な状態に戻していくことを目標とし、社内の有志により組織された「宇佐美倶楽部」が中心となって進めています。2019年度は、7回実施し、81名の役職員とその家族などがボランティアで参加しました。



フコク・クリーン倶楽部(FCC)活動

2007年1月より千葉ニュータウン本社勤務者により、最寄駅「北総鉄道 千葉ニュータウン中央駅」の駅前清掃活動を行っております。毎月、有志の団体「フコク・クリーン倶楽部(FCC)」により活動を行っております。



環境配慮型の不動産開発

2010年にオープンした大阪富国生命ビルは、大阪市建築物総合環境評価制度において、「第5回顕彰建築物 CASBEE大阪 OF THE YEAR 2010」の表彰を受けております。

また、2017年にオープンした札幌フコク生命越山ビルは、米国の環境性能評価システムLEEDにおいて、札幌では初となるゴールド認証や、DBJ(日本政策投資銀行)のGreen Building認証制度において4つ星を取得しており、省エネや環境に配慮したオフィスビルとして評価を受けております。

さらに2019年度に竣工した小岩フコク生命ビルでは、壁面緑化や高効率設備を採用すること等により、当社では初となる、国が推進する建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)において、最高ランクおよびZEB Ready認証を取得しました。今後も持続可能な社会の実現のため、環境配慮への取組みを推進していきます。



小岩フコク生命ビル



大阪富国生命ビル



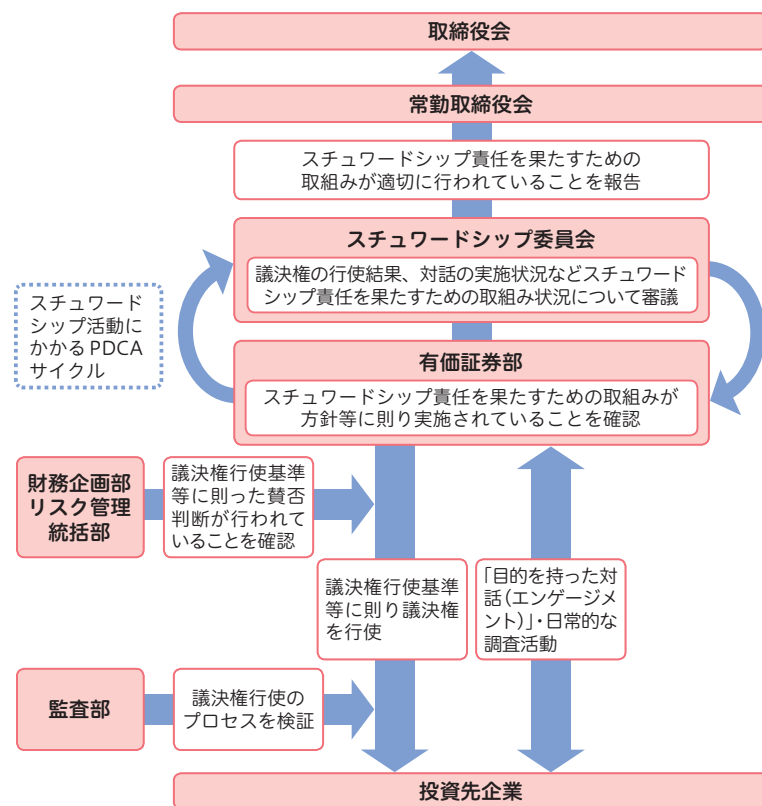
札幌フコク生命越山ビル

スチュワードシップ活動

当社は、「責任ある機関投資家」の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》を受け入れ、「スチュワードシップ責任を果たすための方針」「スチュワードシップ責任を果たすに当たり管理すべき利益相反についての方針」「議決権行使についての方針」を制定し、主要投資先企業との建設的な「目的を持った対話」（エンゲージメント）に注力しております。スチュワードシップ委員会では、議決権の行使結果や対話の実施状況などスチュワードシップ責任を果たすための取組み状況を審議し、その内容は取締役会に報告しております。社外委員を委員長とするスチュワードシップ委員会での審議内容を踏まえつつPDCAサイクルを継続的に実践し、スチュワードシップ活動の透明性および実効性の向上を図っております。

引き続き、投資先企業とのエンゲージメントや議決権行使などのスチュワードシップ活動を通じ投資先企業の持続的成長を促し、お客さまからお預かりした大切な資金の中長期的なリターンの拡大に資するよう努めてまいります。なお、スチュワードシップ活動の詳細については、当社のホームページで公表しております。

【スチュワードシップ活動体制イメージ図（一般勘定）】



【スチュワードシップ委員会の概要】

構成
【社外委員】 2名 (委員長は社外委員の中から選定) 【社内委員】 5名 コンプライアンス統括部長 (利益相反管理統括者) リスク管理統括部長 総合企画室長 有価証券部長 財務企画部長
審議事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 議決権行使のうち重要議案の賛否判断に関する事項 ・ 投資先企業との対話の実施状況 ・ スチュワードシップ活動における利益相反防止態勢に関する事項 ・ スチュワードシップ活動に関する社内規程等の改正案に関する事項 ・ その他、スチュワードシップ活動に関する事項
開催
原則年4回

PRI 署名機関としての ESG 投融資の拡充

当社は、お客さまの利益を最優先とした資産運用を実践するとともに、生命保険業の公共性を踏まえ、資産運用を通じ社会的責任を果たしていくことに努めております。2016年3月には、国連の責任投資原則（PRI、Principles for Responsible Investment）の趣旨に賛同し、署名機関となりました。当該原則に則った投融資を行うことは、お客さまからお預かりしている大切な資金の収益性向上に資すると同時に、機関投資家としての責務をより一層果たしうものと考えております。PRIの署名機関として、受託者責任に反しない範囲において、投資の意思決定プロセスにESG[※]課題を組み込むとともに、同じく署名機関である富国生命投資顧問株式会社と連携し、ESG投融資を拡充しております。今後も、収益性の確保という受託者責任を果たしつつ、持続可能な社会の実現への貢献を目指してまいります。

なお、2019年度におけるESG投融資の主な取組事例は80ページをご参照ください。また、責任投資原則（PRI）活動の詳細については当社ホームページで公表しております。

※ E（環境、Environment）、S（社会、Social）、G（企業統治、Governance）



SDGs (持続可能な開発目標) 達成に向けて貢献してまいります。

SDGsとは、2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で採択された、世界の貧困をなくし持続可能な世界を実現するための国際社会共通の目標 (Sustainable Development Goals) のことです。2030年までに解決を目指す国際目標であり、17の目標と169のターゲットで構成されています。

●フコク生命におけるSDGsに対する考え方

生命保険とはお客さまの一生にわたる、さらには世代を超える約束であり、終わりのない仕事です。未来永劫お客さまとの約束を守るためには、会社が持続的に成長し存続していかなければなりません。そのためには、持続可能な社会が必要であり、こうした社会をつくっていくための企業活動は当然のことと考え、事業を遂行してまいりました。このような企業活動の一つひとつが、結果としてSDGsの達成に貢献していくと考えております。

フコク生命の取組みとSDGs

	ゴール	取組み内容	ゴール	取組み内容	
1	 貧困をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> ●生命保険業を通じた保障の提供 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド (開発途上国の貧困削減、開発支援) への投資 	10	 人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢のお客さまや障がいをお持ちのお客さまへの取組み ●障がい者雇用・女性活躍の推進 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド (障がい者支援) への投資
2	 飢餓をゼロに	<ul style="list-style-type: none"> ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド (フードロス・食品廃棄) への投資 	11	 住み続けられるまちづくりを	<ul style="list-style-type: none"> ●省エネ、省資源への取組み ●被災地への復興応援活動 ●フコク・クリーン倶楽部 (FCC) 活動
3	 すべての人に健康と福祉を	<ul style="list-style-type: none"> ●生命保険業を通じた保障の提供 ●フコク赤ちゃんクラブの運営 ●ピンクリボン運動、ハロースマイルへの協力 ●認知症サポーター認定取得の推進 ●健康経営への取組み 	12	 つくる責任 つかう責任	<ul style="list-style-type: none"> ●省エネ、省資源への取組み ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド (フードロス・食品廃棄) への投資
4	 質の高い教育をみんなに	<ul style="list-style-type: none"> ●ライフプランセミナーの実施 ●数学の特別授業の実施 ●特別支援学校向けに訪問コンサートを開催 	13	 気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> ●役職員による山林保護活動 ●グリーンボンドへの投資
5	 ジェンダー平等を実現しよう	<ul style="list-style-type: none"> ●フコク赤ちゃんクラブの運営 ●女性の活躍推進 ●アジア開発銀行のジェンダー・ボンド (ジェンダーの平等化及び女性の活躍推進) への投資 	14	 海の豊かさを守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド (プラスチック廃棄物による海洋汚染問題) への投資
6	 安全な水とトイレを世界中に	<ul style="list-style-type: none"> ●アフリカ開発銀行のインテグレート・アフリカ・ボンド、インダストリアルライズ・アフリカ・ボンド、インフラストラクチャー・ボンドへの投資 	15	 陸の豊かさも守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ●役職員による山林保護活動
7	 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギープロジェクトへの融資 ●グリーンボンドへの投資 ●環境に配慮した不動産運用 	16	 平和と公正をすべての人に	<ul style="list-style-type: none"> ●コーポレートガバナンスの強化 ●コンプライアンスの推進 ●マネー・ローンダリング及びテロ資金供与、反社会的勢力への対応
8	 働きがいも経済成長も	<ul style="list-style-type: none"> ●健康経営への取組み ●働き方改革の推進 ●障がい者雇用の推進 ●仕事と子育て・介護の両立支援 	17	 パートナーシップで目標を達成しよう	<ul style="list-style-type: none"> ●スチュワードシップ活動 ●特殊詐欺の被害防止に関する警察との連携 ●自治体との連携協定の推進
9	 産業と技術革新の基礎を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ●ITを活用したサービスの提供 ●産学連携活動への支援 ●アフリカ開発銀行のインテグレート・アフリカ・ボンド、インダストリアルライズ・アフリカ・ボンド、インフラストラクチャー・ボンドへの投資 	<p>●気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言へ賛同 (2020年6月)</p> <p>TCFD提言への賛同は、気候変動問題の重要性を認識したうえで、SDGs達成への貢献を目指す当社の姿勢を表明するものです。</p>		

決算の概要
お客さま基盤
商品・サービス
CSR活動
人づくり・場づくり
相互会社運営
経営管理体制